



子育ての知恵袋

「ことば遊び ～はで始まることば遊び～②」

今回は、なぞなぞを使った「はで始まることば遊び」をご紹介します。前回の「はっぱ」を「あっぱ」と言うなど、覚え違いや言い間違いがあったことばは、遊びながら正しい音を聞く・声に出す機会を増やしましょう。また、なぞなぞの問題を聞くことは、そのことばの概念や特徴の理解の向上にもつながります。

「はで始まることばを言おう」； なぞなぞの答えとなるよう、大人が問題を出します。

例 「はで始まることばです。植物の一部分で、緑色ですが、枯れると色が変わったり、落ちたりします。」

→ 「はっぱ」または「は（葉）」

「はで始まることばです。歯をみがくものです、」

→ 「はぶらし」

「はで始まることばです。紙やひもなどを切るときに使います。」

→ 「はさみ」



～ことのはを考える～

ことばと行為の結びつき

筆者が園訪問をした時に言葉についても話が出ます。発語はどうか、言語理解はどうか、表情から読み取れるか、言葉と行動が結びつくか、周りの環境・状況がどうか等々含め、言語以外の視点からも総合的に子どもの発達を考えていきます。

課題に挙がるのは、集まりで発言できない、質問に答えられない、話を聞いていないなどが多いでしょう。子ども側からすれば、発信したい気持ちになっている訳ではなく、聞きたい内容ではなかったりするかもしれません。

相手に伝えたい気持ちがあれば、言葉がなくてもコミュニケーションは成り立つのですが、会話という時に友達と遊びながら自由に言葉のやり取りをしている場面もみてみましょう。

「え？それいいやん。」「〇〇作ってみた」「そしたらこれもこうしたら？」などと話しながら遊んでいる子ども達が、大人と対面すると言葉に詰まったり、小さな声になったりする事があります。何故でしょうね。

言葉のキャッチボールとよく言われますね。その基礎であるやりとり関係は0歳から育っていき、言葉を介することを学んでいきます。

『ちょうだい』 に応えて物を渡す

『ありがとう』 とお辞儀をされ、真似る

この一つ一つの積み重ねが何度もベクトル（⇒）が往復してやりとりになっていく（⇄）わけです。

先月でもお話しした非言語の「察する」力がなければ、相手の言葉から自分に求められている事が分からない状況が生まれます。

「ちょうだい」と手を差し出されて、今持っている物を指しているとは何故理解したのでしょうか？ ここが認知の大事な部分になります。

幼児教育センターは、就学前から小学校教育へつなぎます
夢と希望のもてる たらっこを
応援します！

宝塚市教育委員会 幼児教育センター

〒665-8665 宝塚市東洋町1-1

電話 0797-71-1141(市役所)

0797-77-2132(直通)

FAX 0797-71-1891

E-mail m-takarazuka0289@city.takarazuka.lg.jp



★ 発達、就園・就学等の相談がありましたら、上記にご連絡ください。